

<p><2> 大嶋 洋一氏 「パワーデバイス産業に対する特許を活用したビジネス戦略の提言」 ー平成22年度特許出願技術動向調査報告書 「グリーンパワーIC」の紹介ー</p>	<p>聴講者への質問</p>	<p>御意見<回答者1></p>	<p>御意見<回答者2></p>
<p>① 主旨:グリーンパワーIC(新しい言葉)⇒グリーンイノベーション<環境産業(農林水産業、水処理産業、リサイクル業)と再生可能エネルギー関連産業(創エネ産業、畜エネ産業、省エネ産業)>、日本はこれから、ここで飯を食って行く。現在はマクロな転換点である。次の時代に渡すものは、 <グリーン>=持続可能性(sustainability)</p>	<p>日本の産業力として、優位に展開することが可能な技術力として挙げられた。パワー半導体デバイスとその応用分野についての本調査(提言を含む)全体としての主旨に対する感想は？</p>	<p><2>の① 特許には基本特許のような波及効果が大いものから、重箱の隅的技術のものまで幅広いグレード(インバクトの違い)があると思います。特許の重要さ:「インバクト係数」をかけた値で議論すれば、より効果的な議論が出来るのではないのでしょうか。</p>	<p>特許許ならでのビジネス戦略であり、大変参考になった</p>
<p>② 特許調査では、特許動向分析(パワーデバイス、応用=電力変換器)、論文・学会誌動向分析、委員会・有識者ヒアリング、市場環境動向分析、政策(標準化含む)動向分析を行い、今後日本が目指すべき方向性に関する提言を行った。</p>	<p>本特許調査において、結論を得るための調査分析項目に対する感想は？</p>	<p><2>の②</p>	<p>十分な調査項目量だと思う</p>
<p>③ グリーンテクノロジーによるグリーン関連産業は有望な投資先であり、パワーデバイス産業は「グリーン」産業の主役であることの自覚が必要。業界を牽引するリーディングカンパニーが国内に多く存在し、国内に豊富なビジネスパートナーがあるが、充分に特許をビジネス=サービスに結び付けられていない。 ⇒アプリケーションスペシフィックパワーデバイス(ASPD)／アプリケーションスペシフィック技術が重要。</p>	<p>左記の分析結果に対する感想は？</p>	<p><2>の③ 「パワーデバイス産業はグリーン産業の主役であることの自覚が必要」の「自覚」は現状の何が不十分で、何をどうすべきかと言われているのか、良く理解できませんでした。</p>	<p>特許をサービスに結び付けなければならないという意識が高まった</p>
<p>④ 7つの提言 ・提言1<基本的理念>有機的結合(Chipのビジネスではない) ・提言2<基礎・共通>アプリケーションスペシフィック(EV:人命にかかわる技術→コロボ) ・提言3<基礎・共通>人材の育成政策動向(人的ネットワークでグローバルな人材輩出) ・提言4<基礎・共通>情報発信・標準化 ・提言5<Si系>コモディティ化のためのビジネスモデル ・提言6<SiC系>市場創設のためのアライアンス活動 ・提言7<GaN系>情報共有のためのアライアンス形成</p>	<p>左記7つ提言において、特に共感、強調できる提言・主張は？ 逆に異なる認識、注意すべき点と思われることは何か？</p>	<p><2>の④ 人材育成政策で「人的ネットワーク」を取り上げられていることに共感しました。</p>	<p>提言⑥に共感した。オールジャパンでの市場立ち上げは理想的だと思う</p>
<p>⑤ IPコンソーシアム(IP based Consortium)の提案 特定の技術分野において、他人の特許を安心して利用できる環境を提供する知財環境を整備する組織。特許を「地雷」でなく、公共財に変えるための役割を担う。 会費=入会金+固定分+売上高連動の変動分 運営主体:市場環境整備という視点からは、中立性、公平性、安定性が求められるので公的機関の積極的な関与による運営が望ましい。</p>	<p>講師が提唱しているIPコンソーシアムに対するご意見は？ *テキストに無いため、別途大嶋様より資料を頂き添付</p>	<p><2>の⑤ どのような理念を持つコンソーシアムか？枠組みは日本がグローバルか？既に多くの企業活動は日本からはみ出している現状では、コンソーシアムにおける価値の共有化がなかなか難しいのではないかと思います。</p>	<p>理想的だと思うが、特許を多数出願している企業ほど参加しないのではと思う</p>